

## 第5回 斐伊川放水路環境モニタリング協議会 議事要旨

日 時 令和元年6月11日（火）

13:30～15:30

場 所 出雲河川事務所

指摘事項	回答・対応
(1) 「資料-1 前回協議会以降の指摘事項と対応」について	
斐伊川放水路の分流による宍道湖へのリン負荷量の低減効果をまとめた部分で、今回の分流では資料に掲載された神戸川のL-Q式に収まったという理解でよいか。	今回の分流では、馬木の流量が200m <sup>3</sup> /s程度であり、資料に掲載したL-Q式に収まっている。今後もっと大きい出水があれば、式の見直しも検討したい。
(2) 「資料-2 5カ年の総括とりまとめ」について	
アユの産卵場調査については、産卵期に立ち入らない調査にとどめているが、漁協に趣旨を理解してもらい、産卵期の卵数等を調べる必要があるのではないか。	漁協と話をしていきながら、可能であれば、そのような調査も検討していきたい。
仔アユ流下調査など様々な調査を実施しているが、過去に水産試験場もアユの調査を実施しているので、その調査結果を参考にしようか。	データを参照し、報告書に記載する。
陸上昆虫類の調査結果で、1,747種が確認されており、単純な環境にみえて意外と多様性に富んでいたということかも知れない。また、優占種、重要種、外来種、攪乱度指数など分かりやすいとりまとめになった。	—
平成29年度と30年度に確認されたアレチウリ群落はどれくらいの面積なのか。早期対策に活かせるのではないか。	神戸川の7k地点から7.5k付近、神戸堰の下流左側にあり、平成29年度は1カ所で13m <sup>2</sup> 、平成30年度には2カ所で218m <sup>2</sup> を確認した。
昔はニゴイ属はいなかったと思われる。ここでの外来種はどういう扱いなのか。 【別委員意見】 外来種の定義づけをすればよいと思われる。移入種についてどう扱うかについても、事務局で定義づけを検討しようか。	本調査においては、外来種及び国内移入種については、下記の文献に記載された種を取り扱うことと整理した。 [外来種] 1) 特定外来生物による生態系に係わる被害の防止に関する法律（環境省、2004） 2) 生態系被害防止外来種（環境省） 3) 外来種ハンドブック（地人書館、2002） [移入種] 1) 改訂版 日本の淡水魚（山と溪谷社、2001） 2) 日本産魚類検索 全種の同定 第三版（東海大学出版会、2013） 3) フィールドガイド淡水魚識別図鑑（誠文堂新光社、2014） 4) 日本の外来魚ガイド（文一総合出版、2008） 5) 見えない脅威“国内外来魚”（東海大学出版会、2013）
ワンドの知見について、ここでは鉢型が有効という表現があるが、何にとって有効なのか。前提を明確にしておかないと、今後誤解を招く可能性がある。	ワンドの維持という観点で有効という趣旨であり、前提を明確にして報告書に記載する。

指摘事項	回答・対応
(3) 「資料-3 総括及び今後の調査計画」について	
<p>今後の大規模出水後の調査計画については全体的に異論はない。ただし、シジミ調査で、出水した時に影響を受けるのは浮遊幼生や着定稚貝であるため、稚貝も調査対象に入れていただきたい。</p>	<p>今回のモニタリング調査の評価では、殻長10mm以上のデータで整理・提示したが、小さな個体も調査している。今後の大規模分流後の調査でも、同様に小さい個体も調査対象とする計画である。</p>
<p>本協議会の位置づけについて、アセス書があって、その予測評価をモニタリングしていくという話の中で、洪水時の堤防の下を通っての噴き出しや、堤防の沈下などによる周辺の水路や人家への影響は、このモニタリング調査に含まれるのか。我々の議論する範囲がどこまでなのかということも含めて確認したい。</p>	<p>洪水時の対応等については、河川管理者として地元とお話をしていくもの。本協議会は、規約の目的にあるとおり、河川環境に関する諸問題について、ご意見・ご助言をいただく場である。</p>
<p>外来種（ヌートリア、コブハクチョウ等）について、河川水辺の国勢調査で把握できることと、できないことを整理して、必要であれば外来種の調査をしていくことが必要と思う。河川管理者として対応できることとできないことを整理していた方がよいのではないか。【意見】</p>	<p>外来種については、河川水辺の国勢調査等により状況を把握する。河川管理者としての対応が必要な場合は、関係機関と連携しながら対応する。</p>
<p>陸上昆虫類の重要な種の保全対策をこの5年間取り組んでもらっており、非常に効果が出ているので、今後とも継続をお願いしたい。【意見】</p>	<p>引き続き取り組んでいく。</p>
(4) 会長の総括	
<p>この5年間、多岐にわたる調査を実施してきた。協議会からの様々な意見を取り上げ、それを反映させる形で進めていただいたことに、感謝を申し上げる。結果自体も非常に満足のいくものと理解している。また、今後、大規模分流が発生した後に2年間継続して調査を実施する計画が提示されており、それについても評価したい。</p> <p>委員の皆様、事務局、この事業にかかわった関係者の皆様に御礼を申し上げる。</p>	